

令和6年度 第3回川崎市教育改革推進会議（摘録）

日 時：令和7年2月6日（木）18：00～19：30

場 所：川崎市役所第3庁舎5階 教育委員会室

出席者：卯月委員、岡田委員、倉持委員、小林（進）委員、中谷委員、浦山委員、宮越委員、小林（勝）委員、松田委員、百瀬委員、稲葉委員、石村委員

（事務局）小田嶋教育長、池之上教育次長、佐藤総務部長、岩上教育政策室長、小澤学校教育部長、大島生涯学習部長、大野総合教育センター所長、堅月教育政策室担当課長 他

欠席者：高橋委員

傍聴者：なし

司 会：堅月教育政策室担当課長

【配布資料】

資料1 川崎市教育改革推進会議運営要綱

資料2 川崎市教育改革推進会議委員名簿

資料3 次期かわさき教育プランにおける基本理念・基本目標について

資料4 かわさき教育プラン第2次計画期間における取組の成果と課題

資料5 今後の策定スケジュール

【次第】

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 次期かわさき教育プランにおける基本理念・基本目標について
 - ・グループ協議
 - ・全体協議
- 4 かわさき教育プラン第2次計画期間における取組の成果と課題
 - ・全体協議

議題 次期かわさき教育プランにおける基本理念・基本目標について

宮越委員：持論ではありますが、今回の教育プランをつくるプロセスはすごくいいなとも思います。みんなでつくろう、そのままみんなで何かをやろうよというメッセージにつながっていくと良いと思いました。

私が今こだわっているのは、学校と地域が連携するということは、地域の立場からするとよく言われていることですが、言葉としては、私は「大人と子どもで築く豊かな学び合いの社会」というフレーズを持っています。このフレーズに込めるものというのは、「大人と子ども」と出すことによって、多様な人格があるんですけど、シンプルに出さないと意味が伝わらないと考えていて、例えば障害者や外国人を含む「みんなで豊かな学び合いの社会をつくる」ということ。これはみんなが対等ということです。

昨日の寺子屋では、GIGA端末で子どもたちがいろいろやるので、今までとはちょっと教え

方が変わってきています。これどうやってやるのって、プログラミングのゲームをやっているんですよ。子どもがゲームを楽しんでいると、おじさんにも楽しませてよと言って教えてもらうんですけど、そのことが子どもたちにとって何かいいよねという感情になっています。そういう、みんなで学び合いの社会をつくろうということを入れたいなと思っています。

それで、前回会議で紹介された渋谷区の教育大綱では、「子どもたち、先生たち、地域が、一緒になってつくりあげる。それが、私たちが考える未来の学校です。」これはすごくいい文章なんですけど、最後、「未来の学校」ではなくて、「未来の社会」にしてほしいんです。

そういう意味で、社会教育ということにこだわっている部分もありますが、学校も含めて社会ということ伝えて、学び合いの社会というふうにしたいと考えています。

4つのパターンの中で、私がとても良いと思ったのは、パターン③の案2「Grow Together」で、メッセージがある上で、最後に「Grow Together」みんなで成長しようというのはすごくいいなと思っています。

小林（進）委員：どの案もいいなと思っていました。

その中で、私がここで質問したのは、「多様性を可能性へ」って何だろうって。これはぴんとこないという話をしました。そうしたら、川崎の未来をつくる力だとか、そういうメッセージをこういう言葉にも求めたほうがいいかなと思ったことが1点。

あと、こういう市民全体で共有するのであれば、あえて片仮名とかは使わないで、やさしい日本語で表現したほうがいいんじゃないかなと思いました。例えば、「ビジョン+シェアードバリュー」とは何だろうと。「未来を築く価値共有」「市民の価値共有」など、そんなメッセージにしたほうがいいのかなと思います。

あと、岡田委員のほうから、川崎は多様性のまちだから、日本語だけではなくやさしい日本語ややさしい英語でもつくるといいのではないかという意見が出ていました。

松田委員：実は、昼間の中学校長会の役員会で、この会議とは別にいろいろお話しさせていただいた中では、パターン②が圧倒的でした。今、小林（進）委員からあったように、子どもたちに伝えるのであればやさしい日本語でしょう、と。日本なんだからというような意見ががんと頭に来ていたのですが、個人的にはパターン③なんだと思っていました。ただ、多くの方々はパターン②ですという言い方をしていました。パターン③も捉え方がいろいろあって、「挑戦する」の「戦」という字は子どもに対してどうなのだろうと捉えている方もいました。

私は今日、実はスクールカウンセラーの研修を受けてきたんですけども、先生方は最近メンタルに入る先生方の対応が大変ですねということで、話を聞く手法をいろいろ聞いてきました。

その中で、「話を聞く校長先生御自身が、自分の幸せをしっかりと見つけないとだめですよ、何か幸せになれることはありますか。」と言われて終わったんです。

実は役員会でも話が出たんですけど、まずは自分をしっかり幸せにしましょうということです。なので、パターン③の「自分も幸せ、みんなも幸せ」というのは、それがまず一番最初に来ると言えます。それから、周りを認める多様性という話になってくるんじゃないかという意見が、役員会でも出ていました。私は個人的にはキャッチーなパターン③で10年先を見据えるということでもいいんじゃないかなとは思っています。

岡田委員：教育プランは、新しい教育観が示されるものであってほしいです。今までの駄目という意味ではなく、今までの踏まえた上で、新しい教育観が示されるものであってほしいというのと、やっぱり川崎市民や教育に関わる方々が読んで顔の綻ぶものがないんじゃないかなというふうに思います。これを見て、エネルギーが出てこないといけないので。

そういうことを考えると、私は教育長がおっしゃっている「他者への想像力」というのが絶対的なキーワードで、多様性を生かそうとしたとき、これが根本になれば駄目だというふうに思います。なので、教育長の「他者への想像力」はいいワードだなというふうに私は思っていて、その意味でパターン③がいいんじゃないかなというふうに思っています。

先ほど小林（進）委員もおっしゃってくださったんですが、多様性を認めていこうとしたら、概要版だけでもいいんですけども新しい教育プランの英語バージョンがぜひ必要ですし、そしてやさしい日本語で表現されて、誰が見ても分かるようなものになってほしいなというふうに思います。

シェアードバリューという言葉があるんですけども、実は大阪大の入野宏教授が、日本人というのは実は価値観と感情の両方の表現を好む傾向があるんだとおっしゃっているんです。つまり、価値観としての捉えは、ある感情を生き物以外にも向けて、社会的に許容して大切にすることという意味で、感情としての捉えは、生物学的な基礎があって、その時代の文化に依らないで普遍的に存在するものなんだというものです。

そこを踏まえると、価値観としての捉えと、感情にも訴えかけるような捉えというのが絶対必要で、日本人はそれを好みます。そこを踏まえたとき、やっぱりパターン③を土台にして今言ったようなところで変えていく必要があるんじゃないかなと考えます。

もう一つ、私は生成AIによって、つまりAGIに代表されるような生成AIによって、学校現場がガラッと変わっていく可能性が非常に高く、もしかしたら、小学校1年生は何歳から何歳まで、2年生は何歳から何歳までという、当たり前前に考えていることが既に変わらざるを得ないんじゃないか、いや、変えていかなければいけないんじゃないかと思います。実際に、対面でやるのが教育だという概念が私たちはあるんですが、インターネットを使って、もっと言うてしまえばバーチャルな教室での教育ももう可能になっているんじゃないかと考えます。それから、日本は、日本に住んでいる人だけを対象にしているけれども、川崎からどこか外国に行って、時間さえ合えば日本の川崎の教育を外国の学校の中で受けるということも可能になるんじゃないかというふうに思うんですね。

つまり、私たちがもう常識として当たり前と思っていることがガラッと変わっていくのがもうすぐそこに来ていて、私個人の考えとしては10年間のスパンで学習指導要領を変えるのはもう無理です。もっと早く変えないと追いつかない、そういう時代になっているんじゃないかなというふうに思います。

それから、最後に一つ、千代田区立九段中等教育学校が表彰されたんですけども、ここでは生成AIを使った学習と校務の両面での活動をしていて、実はデュアルディプロマプログラムといって、千代田区立九段中等教育学校にいて、アメリカの高等学校の卒業資格が取れちゃうんですよ。日本にいながらアメリカの卒業資格が取れるということは、九段中等教育学校に行った子は、もしかしたら日本の大学を考えないで、アメリカの大学にそのまま入っていくということがあり得るかもしれません。もちろん3月に卒業しているので、9月まで待たなければいけないんですけども、もうそういう時代になっているので、そういうところを踏まえていくと、私はこの

パターン③がすごく良くて、これを土台にして皆様方の御意見を入れていただいでいくのがいいかなと思っていました。

議題 かわさき教育プラン第2次計画期間における取組の成果と課題

稲葉委員：現行のプランを10年前につくるときに、多少は関わった人間として、いろいろ言いたいことはたくさんあるんですけども、全体としてうまくいかなかった部分なんかも当然ながらあるわけだと思います。達成できなかったこともたくさんあるんだと思いますけども、そういうところをどういうふうに前向きに捉えて次の考え方に生かしていくのか、具体の基本目標などが決まった後に、中身をつくっていくんだと思いますが、そういうところがとても大事なところかなというふうに思っています。

私の専門領域は基本政策Ⅲのところなので、ここに特別支援学級の児童生徒が急増していると書いてあって、これは日本全国どこでもそうなんですけど、私が自分で担当していて、このことについて正面を切って良いのか悪いのかといった議論は避けてきたんですよ。パンドラの箱を開けてしまいそうだったので、これはずっと避けてきたんですけども、今まで議論を避けてきたようなことも含めて、具体の政策をつくっていくときに逃げずに考えていくというか、他のこともそうだと思いますけども、そういう姿勢で次のプランの中身をつくれたらいいんじゃないかなんて個人的には思っています。

小林（勝）委員：私もちょっと教育委員会にお世話になったことがあるので、すごく実感として湧いてきて、たくさんのがあったなと。ここには書いていないんですけど、今、西菅小学校は通級指導教室のエリア拠点校ということで、巡回指導とか書いてあるんですけど、菅地区の子どもたちが一番近くで通えるような制度ができたり、スクールカウンセラーが学校に配置されてすごく劇的に変わったことがいっぱいあって、素敵だなと思いますし。

ただ、たくさん施策をやっていく上で、いろんな書類があって、いろんなものを対応するために、校長なり教頭なりがそれをうまくいくようにやっている状況で、よく昔から言われているスクラップアンドビルドが必要で、スクラップをやっぱりしていけないと、次のプランのときに新しい施策がまた出てきて、これが積み重なっていくとやっぱりそこが苦しいのかなと思います。良いことばかりなんですけど、今、御説明を聞けば聞くほど、うれしいこともあるんだけど、その間のいろんな処理の仕方というのは大変だったかなというふうにはちょっと思っています。

それから、ここにはちょっと触れていないんですけど、今、課題として、PTAの在り方というのがすごく出てきていまして、家庭教育環境については書いてあるんですけど、そこは今、結構各学校でいろいろ大変かなというふうには思っています。その辺りは、これは書くことではないかもしれませんが、我々は今ちょっと危機感を持っているところであります。

卯月委員：多岐にわたる政策で、学校教育のことに触れさせていただきますと、基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす」に、「主体的・対話的で深い学びの実践を目指した授業改善を進める」というところがあります。実は、職場のプロジェクトでも川崎市のリーディングDXスクールや授業改善を進めていらっしゃる学校を、先進的に進めていらっしゃる学校かもしれないですけど、見せていただいて、実際に子どもたちが対話をしつつ、学びを深めている様子を

見せていただき、何年か前には考えられなかったような授業が展開されていると拝察しました。

対話というのは、ただ話せばいいということでもなく、相手を言い負かすことでもなく、お互い聞き合って、必要な場合には自分の考えを変えられることが重要なので、ある子どもから「その論破みたいな言い方はやめて」という発言があったときに、これはすごいことだなと思いました。ちょっと前は、議論するとなると、ディベートで勝つということがイメージされていたかもしれませんが、そうではなくて、人の話を聞くことで自分も変わるし、全く違ったことを考えられるようになるということをしごく子どもたちが理解しているように見えて、大変興味深い変化だと思いました。目指すところに向かって着実に変化しているんじゃないかと思いました。

浦山委員：今、やっぱり1番思うのが、例えば組織を表にぼんと出して、PTAがどう在るべきかと考えると、行き詰まるような気がとてもしています。

現行プランの基本政策が具体的にいろんな成果もありつつ並べていただいて、かつ、その前に次年度以降のいわゆる概念部分というか、コンセプトの部分を議論したという形だと思うんですね。その距離感って結構あるなというのが一つあって、これから各取組に落としていくのは大変だなと思います。それと同じように、PTAの場合の根っここのところも、やっぱり子どもを慈しんで、それをみんなで、親だったり先生だったり慈しんで、教育プランにあるような未来に向かっていくという心が同じなんですよ。それを、どういうフレームの中でどんなふうにして議論していくかというだけの話であって、それは手段だとかフレームだとかそういうことであって、心は同じです。

中谷委員：基本政策のⅡに関して、これは自分の親の立場としてなんですけど、「子どもたちが主体的に考え、解決していく学びに取り組む必要があります」と記載されていますけれども、これ、言葉で言うと納得する話なんですけれども、ずっと子どもたちを見てきた中では、自分が通っている学校の子どもたちだけを見て思うのは、本当に対話のある授業を受けてきたこともあるかと思うんですけれども、もうしっかり身に付いているなというのをいろんな場面で感じるんですね。

ですから、次期プランの基本理念のところから今決めていっていると思ったときに、各取組に落とし込んでいくところまで考えたらちょっと気が遠くなってしまったんですけれども、そういったことがしっかりと子どもたちに根づいていて、それが自分の子どもの財産になっているんだなということを日々実感しておりますので、ちょっとしごく大変なお仕事なんだなと思うんですけれども、また頑張ってくださいと思います。

石村委員：基本政策は8つありますけど、どうしても組合の立場で御発言させていただきますと、組合員からは、やはり基本政策Ⅴの相談といいますか、こういった声がやっぱり多いなとは思っています。

やっぱりいろいろと成果、課題ということで記載をしてくださってはいますが、やはりこの成果を現場の職員が見たときに、果たしてどれぐらいの教職員の方が、そうだよなと思っていただけるかというのは、やはり組合の立場からしましても、疑問は正直つくのかなと思っていますので、こういったところを現場の方々とも一緒に分かち合えるというか、そういったものを引き続き皆さんと共に築いていかなきゃいけないという思いを改めて持ちました。

倉持委員：私は、後半のほうの政策に関連して、少しまだコロナ禍の影響ということもあると思うんですけど、教育文化会館、市民館分館の施設利用率とか、日本民家園や青少年科学館の入園者数というのが、やっぱりコロナ前ほど戻っていないというところが、ニーズがなくなっているのではなくて、人々の暮らし方とか価値観が少し大きく変化しているということもあると思いました。また、市民や大人たちの学びが必要でなくなったわけではなくて、状況が少し変わってくる中で、どうやってアプローチしていくかということが、次に引き継ぐ課題だなというふうに、このグラフとかデータを見て改めて思いました。

周りの活動状況を見ていても、市民の学びの在り方も、今まで熱心に活動されていた地域人材によって支えられていた様々な活動が、やっぱりいろんな側面で担い手不足、引き継げないというようなことが起きています。どんなにすばらしい活動をしていても、それが次の5年、10年に引き継いでいけないとか、新しい活動に踏み出していけないというところは非常に残念なことだと思うので、こういった教育の施設だとか事業の中でどうやってアプローチしていくかだと思います。今回は、民間の手法を少し取り入れるようなことだったりとか、いろんな新しい事業ということも報告されていたと思うんですけども、学校で探求的な学びが展開されているように、地域の中でもそういった展開をして育ち合っていくという観点が、ここで重要な指摘になってくるんだろうなというふうに、改めて今回のデータとか御報告を聞いて思いました。

百瀬委員：私は高等学校ということなので、高等学校的なところでお話をさせていただければと思います。

皆さんに知っていただきたいのは、やはり川崎の高等学校5つしかないんですけれども、その中に専門学科で工業があったり、商業があったり、福祉があったり、生活科学科、家庭科があったり、それから国際科、それからスポーツ科があったりということで、学校数は少ないんですけれども、中学生の子たちが次のステップに行く選択肢がある市だということで、他都市にないすごい魅力じゃないかなというふうに思っています。

先ほど、基本政策Ⅱの中で高校改革というところもありましたけれども、当然、時代の流れがあって、例えば今は普通科志向というようなことで、私の在籍している幸高校も以前は商業高校という商業科だけの学校だったところが、普通科と商業科の併設校になったというような変化もされてきています。また、中学校では不登校であったりという子どもは、定時制という選択肢もあります。全日制の学校というのは、1日6時間の3年間なんですけれども、定時制の場合だったら1日4時間の4年間ということなので、学校にいる時間が短くて済むような、そういう学校になるわけなんですけど、ぜひ中学生の選択肢がたくさんあるような豊かな教育を、今後もぜひ維持していただきたいです。

先ほどから話もありましたが、教員の人材という部分では、小学校、中学校の先生が足りないというのはもちろんなんですけれども、高校も今お話ししたように専門学科があるので、もちろん採用する側も難しいんですけれども、なかなか成り手がない部分もあったりというところで、ぜひいろんな形でやっていただけたらありがたいなというふうに思っています。

また、支援教育に関しても、高等学校は今いろんなお子さんが入ってくるようになってきました。本校でもいわゆる発達障害の子どもが入ってきたりということで、放課後に先生が個別に面倒を見ることも行っています。

高校も変わってきていますので、ぜひ小・中、特別支援学校は特に大事なんですけど、高校もぜひ仲間に入れていただけたらありがたいです。

報告 今後の策定スケジュール

(報告のみ)

(1 9 時 3 0 分 閉会)